

明德中学校



元気なお年寄りできてもらうために

明徳中学校 一年

久保田雄也

みなさんは、自分のおいさん

おばあさんを大切にしていますか。

最近はお子高齢化といつて子供

が少なく高齢の方が多いという時

代になっていきます。

自分は、おいさん、おばあさ

んにと、てどう思われていると思

いますか？やはり大事な孫だと思

われていると思います。

最近では、老人ホームやデイサー

ビスなどの施設が足りなくて、行

き場に困っているお年寄りがいる

とニユースで取り上げられていま

す。そのお年寄りの気持ちになっ

てみて下さい。行き場もなく、世

話をしてくれる人もいない、とて

も悲しいのではないですか。

自分を生んでくれた親の親ですか

ら、自分がここににいるのは、おい

いさん、おばあさんのおかげだと

思います。そんな大切な人が、悲

しい気持ちにならないように、僕

達は、一緒に遊んだり、話したり

ユニコニクニシヨコを多くとって

いかなければならないのでしょ

うか。そうすることによって、何も

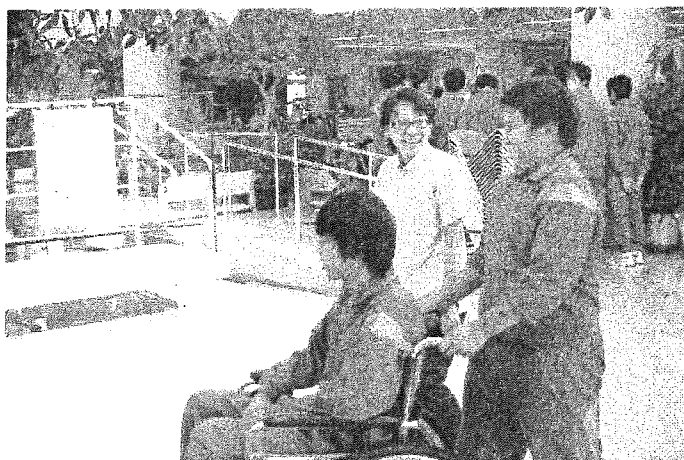
ない日々が楽しい日々とかあつて

長生きできると思います。

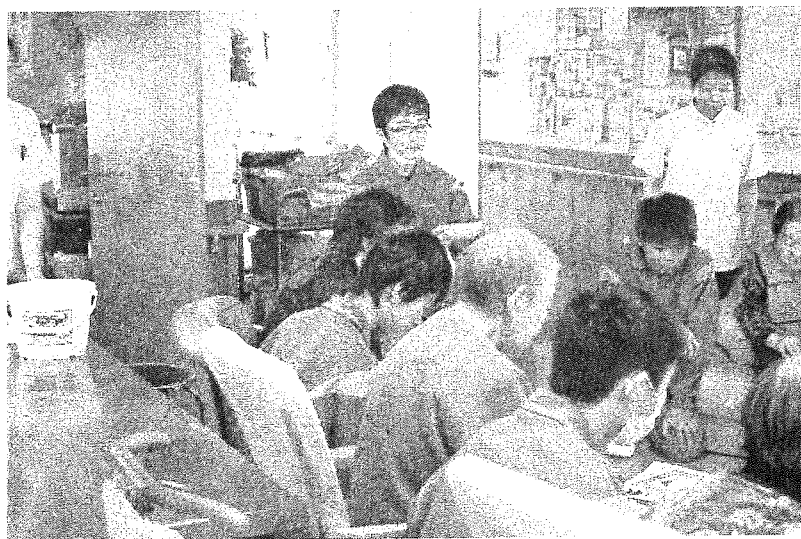
介護施設や老人ホームを増やすことも社会にとっては大事なことです。だと思います。自分の家族だけでは介護しきれないこともあると思います。施設に入ることは悪いとは思いませんが、毎日ではなくて、いいので、会いに行つて、コミュニケーションをとることが家族としての責任でもあると思います。でも、施設に入らなくてもいいように元気でいてもらうのがいいでしょう。そのためにもできることは、一緒に遊ぶ、話すなどの他に、一緒に散歩したり、テレビを見て

内容について話しあったり、たくさんあります。これらのことは私達子供にも、できるのではないのでしょうか。

このようなことを普段からしていくと、頭の中も楽しくなり、お年寄りも、元気になつていくと思います。テレビを見るだけだったリ、一人きりで誰とも話をしないことが、老化を進める大きな原因になつていようです。テレビを見て誰かと話す、おしゃべりする、ことが、お年寄りにとっては大事なのです。いつも元気なお年寄りでいてもらうために、私達にでき



	地	う	ニ	る
	域	で	ケ	こ
	全	し	ー	と
	体	よ	シ	を
	も	う	ョ	、
	元	か	ン	一
	気	。	を	緒
	に	そ	、	に
	な	う	と	考
	る	す	ッ	え
	と	る	て	て
	思	こ	み	、
	い	と	て	コ
	ま	で	は	ミ
	す	、	ど	ュ



が	無	く	な	っ	て	い	る	の	が	そ	の	ま	ま	に
な	っ	て	い	る	な	ど	、	と	に	か	く	つ	め	あ
と	が	す	ご	か	っ	た	。							
	そ	の	と	き	、	い	と	こ	に	震	災	の	と	き
何	が	大	変	だ	っ	た	か	を	聞	い	た	。	い	と
こ	と	し	て	は	、	と	に	か	く	食	バ	物	が	と
て	も	少	な	く	、	空	腹	だ	っ	た	こ	と	か	つ
ら	か	っ	た	ら	し	い	。	や	は	り	、	食	料	が
足	り	て	い	な	か	っ	た	よ	う	だ	。	た	し	か
に	そ	れ	は	つ	ら	い	。	三	月	の	寒	さ	の	中
で	空	腹	に	お	そ	わ	れ	る	か	ら	だ	。		
	あ	れ	か	ら	も	う	四	年	の	時	が	す	ぎ	よ
う	と	し	て	い	る	。	店	も	次	々	と	復	活	し
て	き	て	、	交	通	の	整	備	も	よ	く	な	っ	て
き	た	。	い	と	こ	の	家	は	建	て	な	お	し	、

の	こ	て	興	し	る	く		数	て	げ	け	い	し	近
中	と	何	が	い	け	こ	平	大	い	た	だ	。道	、奥	所
に	な	よ	進	思	ど	と	等	き	た	ま	っ	。路	地	も
残	く	り	ん	い	、	は	に	れ	ま	ま	た	は	の	家
っ	、	今	で	も	ど	と	す	な	だ	だ	り	じ	方	が
て	い	回	ほ	し	の	も	べ	い	、	た	、	ゃ	は	増
い	つ	の	し	て	地	難	て	ほ	た	り	ガ	リ	あ	え
く	ま	震	い	い	域	し	の	あ	ま	、	ー	を	ま	て
こ	で	災	と	る	も	い	場	る	だ	か	ド	し	り	き
と	も	か	思	の	同	こ	所	。あ	だ	れ	レ	い	進	い
を	み	た	っ	で	じ	と	が		す	ぎ	ー	て	ん	る
時	ん	。た		、	よ	で	戻		る	が	ル	い	で	。た
間	な	。し	そ	早	う	は	っ		こ	残	は	る	い	だ
が	の	る		く	に	あ	て		し	っ	ハ	だ	な	だ
す	心			復	苦		い		は		しゃ			



	る。	ぎ
		え
		は
		す
		ぎ
		る
		ほ
		ど
		、
		強
		く
		願
		っ
		て
		い



車いすの進化

明德中学校

一年

高木 諒明

今、日本では「高齢化社会」が進んでいきます。そうすると、中には足が不自由な人が多くなっていると言えます。足が不自由な人には通行手段として、車いすを使いますが、いくつか問題があります。その問題を解決するために車いすは日々進化しています。一つ目は車いすに乗っている人は、前までは手で車輪を動かすか、後ろから押してもらったのどちらかでした。自分で車輪を動かして

いる人の中には「疲れるから」や「こいでいるところを見られたくない」と外出しない人が中にいました。しかし今では電動で進めるようになり、手元のリモコンで自由になりました。しかし、もう一つ問題があります。それは、段差です。車いすは少しの段差でもひっかかってしまいうような場所に行けません。そのためにあるのが「スロープ」ですが、そのスロープを設置しているところはまだまだ少ないです。新しい車いすは、行きたい場所があっても行けないところをなくす

ため、今、多少の段差なら乗りこ
えられるように改良されました。
このように、車いすは日々進化し
ていきます。
これから、「高齢化社会」が
もっと進んで、お年寄りが増える
のは必須です。身体の不自由な人
も楽しく毎日をごせるように車
いすなどのものが日々進化してい
くでしょう。まだまだ高価ですが、
進化した車いすを使って自由に買
い物したり、車いすに座ったまま
で調理や入浴をしたりできる設備
も増えてきています。体の不自由
な人もその人に合った道具を使う

ことで楽しく快適に生活していけ
ると思います。
車いすでも、自分のやりたいこ
とができ、行きたい所に行けるよ
うになれば、生きる気力が出てき
ます。寝たきりにならず、元気に
長く生活できることが理想です。
誰でも年をとります。私達もいつ
か老人になります。その時には、
車いすがほとんど進化しているか
楽しみな気がします。
でも、道具や設備に頼らず健康
に過ごすのが一番いいと思います。

私は、祖母と一緒に暮らして
 います。家事のほとんどをやっ
 ているので、いつも大変そうに
 しています。中一になつてから
 皿洗いや皿拭きなどを手伝つ
 たり料理を作つたりしています。
 それに、土曜日に届く新聞に書
 いあるパズルを一緒に解いたり
 します。なるべく疲れをためさせ
 ないようになつても笑つて発
 散できるようにして。でも、そ
 の時は祖母のことを考えて手伝
 たり、さうしたりしてゐるわけ
 はありません。何も考えないで、

やつてゐるので、「無意識な福祉
 活動」なのかなと思います。『無
 意識な福祉活動』Ⅱ思ひやりか
 らの行動なのではないでしょ
 うか。私は、こういうこと、続
 けられれば、いいなあと思います。
 そうすることによって、誰でも
 暮らしやすい社会が実現すると思
 います。暮らしやすい社会とは、
 いどろい社会のことなのでしょ
 うか。目や耳、体が不自由な人、
 そうでない人でも、楽に暮らせる
 社会とは、どろい社会なのでし
 うか。

